



奉祝  
 天皇陛下御即位三十年  
 第224号  
 発行 埼玉県神社庁  
 さいたま市大宮区高鼻町1-447-1  
 電話048(643)3542  
 編集 庁報室  
 印刷 株式会社アサヒコミュニケーションズ

目次

平成二十九年度教養研修会報告	2
一都七県神社庁連合会総会報告	4
一都七県神社庁連合会第五十六回中堅神職研修報告	5
第二回「ミニ講座」報告	5
埼玉県神社庁祈年祭	6
埼玉県神社庁神殿鎮座記念祭	6
杜のめぐり(十四)	7
庁務日誌抄	8
新任職員挨拶	9
埼玉県神道青年会献木事業・勉強会	9
埼玉県神道青年会創立六十五周年記念事業 ハワイ日系移民百五十周年 「ハワイ慰霊祭並びに平和祈願祭」報告	10



神社庁神殿鎮座記念祭 3月13日

# 平成二十九年 度 教 養 研 修 会 報 告

中山 真 樹

三月八日、川越氷川神社の氷川会館にて埼玉県神社庁研修所主催・同教化委員会主管により、教養研修会を開催しました。

研修主題は『見つめ直す神職の姿』、副題を「神社と氏子のこれから」といたしました。

私たちが神職は、日々祭祀の重儀を担うことで、地域の精神性の継承を託されています。それは、神社が「祈りの場」として機能することで、地域の絆をつなぎ止める役割も果たしているからであります。今後、過疎化による氏子離れや祭典への不参加、また、コミュニティの崩壊、人口の減少や後継者不足の問題が深刻化していくことはいうまでもありません。

そこで、神職としての立場を再確認し、神職のあるべき姿、祭祀の厳修、神社と地域、氏子との関係性等、次世代への継承を如何に果たしていくかを考える研修としました。

当日は約百三十名の参加者のもと、講師として徳島県神社庁長・大麻比古神社宮司圓藤恭久先生、秩父神社権禰宜新井君美先生の二名の講師をお招きいたしました。

開講式の後、圓藤先生に「神社の役割・神職の使命―稽古照今」と題したご講演をいただきました。

初めに社会の現況に触れて、全国で少子高齢化が進み、日本人の人口は、一時、一億二千万

人以上にもなったが、今後は年間で九十万人減少していき、このままでいくと二〇三〇年には約九千万人と減り続けます。過疎は更に深刻化し、平成二十六年に日本創生会議が提唱したところによると、日本の半分の自治体は消滅するといわれています。

徳島県の人口は、現在七十四万人で埼玉県の人口の約十分の一であり、過疎化が進んでいる地域もあります。

その一方で、田園回帰という現象も起きていて、ウミガメの産卵場所で有名な美波町では、IT関連の会社が起業し、「半IT半遊び」という半分は仕事し、半分は趣味などの遊びを行うということを導入したところ、多くの若者が働きに来るようになりました。また、山間部の限界集落とされていた上勝町では、料理店や料亭で使用する、いろどり野菜といった葉っぱを老人たちが出荷し、生きがいを見出すとともに、二億七千万円の経済効果も生み出しています。

このような事象はありますが、全国的に宗教法人を取り巻く環境は悪く、宗教意識の希薄化や価値観の多様化により、十七万六千六百七十の宗教法人のうち、六万二千九百七十一の法人が消滅するであろうと話されました。

次に、神社界の現況を徳島県の現況に触れながら述べられました。全国的な人口の減少によ

り、氏子数も減少しており、信仰心も薄れてきています。神職数は増加傾向にあり、とりわけ女性神職数は増加しています。しかし、宮司数は減少して一人の宮司の兼務する神社の数が増えており、各宮司への負担が重くなり、宮司職に就くことが敬遠される原因にもなります。徳島県の神職数は現在二百三十九名で、宮司数は百三十一名と少なく、高齢化も進んでいます。また、専業で神社を護つていけるのは二十社ほどです。女性神職が増えてはいるが、待遇改善が追いつかず、神職子弟も様々な事情から、資格取得や研修会を受講できないという問題があり、後継者不足も深刻です。

更には、不活動法人も増加していて、二百六十四社の代表役員が欠員となっています。理由は宮司が亡くなった後の後継者がいないことや、氏子も存在しなくなってしまうことが挙げられます。本来、神社が消滅していく理由としては、吸収合併・任意解散・解散命令の三通りであり、山町の三柱神社は氏子がいけないということで、八坂神社に吸収合併の処置をとりました。また、祭祀や神賑行事も中断せざるを得ない状況も多く見られ、そのまま



にしておく、第三者による法人格の不正取得をされてしまいそうな事象もおきました。

最後に先生は、神職の使命を考える時は、信仰・人・法の三つの側面が重要であり、祀職(祭祀の奉仕者)、教導者(神徳の宣揚と教育・神のみこともち)、経営者(法人の運営者)組織者(総代会・崇敬会・奉賛会)という立場を鑑みて、自分自身が信念を持ち、総代たちを教化し、次世代に引き継ぐことが大切で、そのためには、神社界あげて支えていかなければならないと述べられました。

昼食後、新井先生に「見つめ直す神職の姿―神社と氏子のこれから」と題してご講演いただきました。先生は先ず、増田寛也著『地方消滅』と河合雅司著『未来の年表』の二冊の本を紹介し、その本に書かれていることを話されました。日本はこのままでいけば、少子高齢化が進み、八百九十六の自治体が消滅する可能性があることや、二年後の二〇二〇年には、女性の二人に一人が五十歳以上になり、二〇二四年には三人に一人が六十五歳以上の高齢者大国になると、二〇四二年には高齢者人口が約四千万人とピークになること等を述べられました。明治までの日本の人口は三千万人を大きく超えたことではなく、明治維新後から人口が増え続けたが、十年前から人口減少が始まり、子供の出生数も、かつては多かったが、二年前にはついに百万人を切ってしまいました。

そこで、人口減少社会の神社を考えた場合、石井研士國學院大學教授の見解によると、将来約四割の神社がなくなってしまうと指摘されており、私たち神職も今や将来の日本の現状認識

を持たなければならぬと言われました。

また、過去に『月刊若木』に書かれていたものを引用し、戦後から神職の数は増え続けているが、宮司の肩書きを持っている神職は減少傾向にあり、宮司ではない神職が増えています。これは、宮司一人あたりの兼務社が増えているのと、大社と呼ばれるような神社での職員が多くなっていることを示しています。

次に、神社と氏子(地域住民)との今後の関係をどのようにしていくべきか話されました。神道は共同体の宗教であり、神社を核とした共同体の再構築が必要で、地域の人々と一緒に生きるという使命感を持つべきです。そして、地域のことに関心を示し、神社(神職)が従来よりも具体的な社会貢献活動を積極的に行わなければなりません。

最後に、宗教(神社神道)が人を幸せにするということはどういうことなのかを、現代社会の様々な価値観の中で考えることは神職にとつて必要不可欠です。そして、人類の福祉を増進することに對し、神職は何をすべきで、「民による公共性」のフロントランナーとして、どのようにあるべきかを考えることは永遠のテーマであると述べられました。



左：圓藤先生 右：新井先生

休憩を挟み、質疑応答・意見交換を行いました。今回は多くの質疑応答の時間を設けました。受講生からは様々な質問がなされ、両先生からは丁寧にお答えいただきました。ここで、質疑応答の内容を記します。

(質問)家庭祭祀の断絶について。徳島での現状、今後どうしていくか

(圓藤先生) 徳島では年末や新年に春祈禱があり、氏子の自宅を廻ってお祓いをする。減ってきているが、喚起している。初宮詣、安産祈願は増えている。人生儀礼や年中行事が大事である。神社の境内だけでなく氏子区域全体に目を向けるべきである。

(新井先生) 近年、家庭の形が変化している。宗教のイメージは葬式だが、神葬祭でなくても、祖先の話や命のつながりの話で教化活動をしてはどうか。

(質問)総代が交代し、今までの総代との意識の違いから何か起きた時の対処法は

(圓藤先生) そうならないことを願う。毎月、月次祭に参列してもらい、その後に会議を開催している。総代が交代した時は、宮司から総代の役割について説明している。

(新井先生) そうならない為に、普段から人間関係を良くしておく。その地区や地域に関わる人に就任してもらおう。今後は総代の後継者不足も問題になるであろう。

以上二点を紹介させていただきました。最後に閉講式を行い、本研修は無事終了いたしました。

(教化委員会研修部班長)

# 一都七県神社庁連合会総会報告

高橋 信 和

二月二十一日から二十二日に亘り、一都七県神社庁連合会総会が本県の当番により、さいたま市の浦和ロイヤルパインズホテルを会場に二百余名の参加を得て開催された。

総会に先立ち、中山高嶺庁長、次年度当番埼玉東茨城県神社庁長が代表で、武蔵一宮氷川神社を正式参拝した。

総会は、竹本佳徳副庁長の開会の辞に始まり、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和を行い、埼玉庁長が代表参拝報告、中山庁長の当番県神社庁挨拶と続き、次いでご来賓の北白川道久神社本庁統理の御名代として田中恆清総長、小松揮世久神宮大宮司、打田文博神道政治連盟会長の御名代として加藤治樹副会長よりご祝辞を頂戴した。

続いて、会則により中山庁長が議長を務め、先ず、平成二十八年度評議員会への提出決議案件等の処理結果、平成二十九年度評議員会への提出決議案件等の処理方針について前原参事より報告がなされた。



次に、一都七県神社庁連合会総会提出議案の趣旨説明を当庁蘭田稔理事がされ、満場一致をもって採決された。

続いて茂木治男理事により本総会宣言(案)が朗読され、満場のご賛同を賜り、原案の通り決議された。最後に、次年度当番県の埼玉庁長の挨拶で総会を終了した。

続く第二部では、東京都、埼玉県、茨城県、千葉県等の其々の代表者により意見発表が行われた。東京都の宮西修治神宮大麻頒布推進委員会委員長「東京都における神宮大麻・暦頒布推進活動」、埼玉県の高麗文康高麗神社宮司「天皇皇后両陛下下行幸啓報告」、茨城県の松本知隆茨城県神社庁教化委員会副委員長「神饌田の取り組み」、千葉県の平澤牧人千葉県神社庁教化部広報部副会長「氏子青年会を活用した地域づくり」と題して、各々意見発表を行った。

その後、懇親会が開かれ、中盤からは歌手の涼恵さんの歌声が会場を包み込み、和やかな雰囲気の中お開きとなり、翌朝無事に解散となった。

(神社庁 主事)



## 宣言

畏くも本年は、天皇陛下御即位三十年の佳節を迎える。また、平成三十一年四月十日には天皇皇后両陛下御大婚六十年、四月三十日には天皇陛下の御譲位並びに皇太子殿下の御即位と皇室の御慶事が続く。これにより皇室への国民の関心が深まることから、皇室の御祖神であり本宗と仰ぐ神宮に對する意識向上を図る好機である。

茲に一都七県神社庁連合会総会を開催するにあたり、以下の指標を掲げ、その実践に努めることを誓う。

- 一、皇室敬慕の精神を啓発し、祝意の機運を高め、奉祝の誠を捧げるためにも各地での奉祝事業を推進する。
- 一、次回の遷宮奉賛を見据え、若い世代に對して神宮への啓蒙の推進を図る。
- 一、神宮大麻の頒布数拡大に向けて、家庭祭祀の振興を図る。

右、宣言する。

平成三十年二月二十一日

一都七県神社庁連合会総会

一都七県神社庁連合会第五十六回中堅神職研修報告

朝日 則安

二月二十六日より三月二日までの五日間、埼玉県神社庁が当番県として、一都七県神社庁連合会第五十六回中堅神職研修(甲)が、明治神宮会館を会場に開催され、六十四名が受講しました。

開講奉告祭が明治神宮大前で斎行され、引き続き、明治神宮会館に於いて開講式が行われ、当番県として中山高嶺庁長が挨拶しました。

五日間の研修では、毎朝の禊行や朝拝行事、朝食後各講師による講義が行われた。講義科目は、時局問題(皇位継承) 藤森馨国士館大学教授、祭祀演習(祭祀規程) 茂木貞純國學院大学教授、祭祀演習(行事) 高梨佳樹祭祀講師、神道古典(古語拾遺) 松本久史國學院大学教授、法制実務(税務) 大野公義税理士、法制実務(労務管理) 新井君美研修所講師、講話・竹本佳徳副庁長が講義され、受講生全員が無事修了することができました。

(神道行法道彦)



明治神宮参拝



国旗掲揚

第二回 「ミニ講座」報告

中山 真樹

去る二月十六日、神社庁を会場に教化委員会第二回「ミニ講座」を三十一名の参加の下、開催しました。

本講座は、恩田班が企画した第一回「ミニ講座」と同様に、県内神職を対象に、社会人としての資質向上につながるよう、平日の昼間や、宿泊を伴う各種研修会に、なかなか参加できない方にも考慮し、夕方六時から九十分程度としました。

今回は、「心が見えるマナー講座」と題し、内閣府認可(財)職業技能振興会ウエディングプランナー資格一級をお持ちで、Sorairo Wedding代表の松本智保子先生を講師として迎えました。

松本先生は、一般の人から見ると神職の方はいいイメージを持たれていて、神職が神職であると思っている人もいると言われ、そのような人達をがっかりさせないように接して欲しいと話されました。

また、ウエディングプランナーの仕事では、神社で予約していた結婚式をお客様の都合でキャンセルした時に、神職からは、神様にキャンセルはないだろうと言われたり、怒鳴られたりしたこともあると言われました。

講座では、参加者同士が名刺交換などを実際に行い、そのマナーについて指導を受けました。最後に「マナー」とは、形に心をのせて相手を尊重して接することが大切であると説明されました。

講座終了後は、懇親会を開催し、短い時間ではありますが、講師との意見交換や親睦を深めることができました。

今年度も、社会人としての資質向上につながるような「ミニ講座」を企画して、多くの神職に参加してもらいたいと思います。

(教化委員会研修部班長)



### 埼玉県神社庁祈年祭

二月十四日午後二時より神殿にて祈年祭が、入間西支部の奉仕により齋行されました。当日は高麗文康支部長が齋主を務め、中山高嶺埼玉県庁長を始め、大野光政県神社庁総代連合会長、埼玉県神社庁役員総勢二十四名参列のもと、厳粛に滞りなく齋行されました。祭典終了後の直会では、高麗支部長の発声により御神酒を戴きました。

#### 埼玉県神社庁 祈年祭 次第

- 一、参列者所定の座に著く
- 一、齋主以下祭員参進・著座
- 一、修祓
- 一、齋主一拝
- 一、献饌
- 一、祝詞奏上
- 一、齋主玉串を奉りて拝礼
- 一、参列者玉串を奉りて拝礼

- 一、撤饌
  - 一、齋主一拝
  - 一、齋主以下祭員・参列者退下
- 中山 高嶺  
大野 光政

以上

#### 【奉仕者】

齋主	高麗	神社	宮司	高麗	文康
祭員	秩父御嶽神社	宮司	鴨下	清司	
	三島	神社	横田	正司	
	三輪	神社	宮司	枝窪	邦茂
典儀	神社	主事補	高橋	信和	



(神社庁 今江夏代)

### 埼玉県神社庁神殿鎮座記念祭

三月十三日午後二時より神殿鎮座記念祭が、中山高嶺庁長が齋主を務め、比企支部の奉仕により齋行されました。竹本佳徳副庁長を始め、大野光政県神社庁総代連合会長、同役員、庁役員・協議員、各支部事務局局長等総勢六十七名参列のもと、厳粛に滞りなく齋行されました。祭典終了後には神社庁協議員会及び神政連代議員会が行われた後、神職身分二級上・二級に昇進された方々への伝達式が行われました。その後、一の家にて直会と祝賀会が行われました。

#### 埼玉県神社庁 神殿鎮座記念祭 次第

- 一、参列者所定の座に著く
- 一、齋主以下祭員参進・著座
- 一、修祓
- 一、齋主一拝
- 一、開扉
- 一、献饌
- 一、祝詞奏上
- 一、豊栄の舞
- 一、齋主玉串を奉りて拝礼
- 一、参列者玉串を奉りて拝礼

- 一、撤饌
  - 一、閉扉
  - 一、齋主一拝
  - 一、齋主以下祭員・参列者退下
- 竹本 佳徳  
大野 光政

以上

#### 【奉仕者】

齋主	神社	庁長	中山	高嶺
副齋主	箭弓稲荷神社	宮司	吉田	弘
祭員	八宮神社	宮司	澤田	聡光
	箭弓稲荷神社	権禰宜	千島	浩
典儀	埼玉県神社庁	主事補	岩大路賢	迅
伶人	権禰宜	権禰宜	高橋	信和
鳳笙	水川神社	権禰宜	森田	豊
箏	水川神社	権禰宜	新藤	照久
龍笛	水川神社	権禰宜	橋本	真人
舞姫	水川神社	巫女	浦崎	安悠

(神社庁 今江夏代)

杜の味めぐり (十四)

まつうら食堂

住所 小川町上横田九五五  
電話 〇四九三二七二一〇六〇七  
営業時間 昼 十時四十五分〜十六時  
夜 十八時〜二十時三十分  
定休日 水曜日

小川町に鎮座する八宮神社の千鳥浩禰宜のご紹介で、「まつうら食堂」に伺いました。小川町は、緑豊かな山々に囲まれ、ちょうど桜の開花時期だったことから、多くの観光客が訪れていました。和紙や七夕祭りなどで観光業が盛んで、なかでも厳しい寒さで水が冷たいほどいいものが出来ると言われている小川和紙は有名です。千三百年の歴史があり素朴で温かみのある、楮(こうぞ)だけを使用した「細川紙」の製造技術は、国の重要無形文化財・ユネスコ無形文化遺産の指定を受けています。そして、旧小川町立小川小学校下里分校は、ドラマの撮影やイベントの開催で地元の方より愛されている学校です。ここは山田禎久川越氷川神社宮司が神道青年会会長期に、子供を対象にした対外教化事業の会場として使用した馴染みのある場所です。



八宮神社から五分ほどの「まつうら食堂」は、県道から見ると昔ながらの定食屋さんという、男心をワクワクさせるような佇まいです。伺った時間がちょうど昼時のため、駐車場には多くの車が駐車されていました。ナンバーを見てみると、宇都宮、熊谷、所沢と様々な地域から来ています。インターネットを検索してみると、もつ煮で有名な食堂と多くの書き込みがあり、その理由がわかります。

お店に入るとテーブルの二十二席ほど満席の状態、家族連れの地元の方、観光の方と多くの人で賑わっていました。席に着き店内を見渡してみると、壁に掛けられているメニューが目にとまります。定食、井、めん類と書かれていて、豊富な種類のメニューがありましたが、千鳥禰宜の一押しメニューでもあり、お客さんの九割ほどが注文するという「もつ煮定食」を頼みました。



メニュー

待っている間もお客さんは、途切れることがなく基本的には相席です。もつ煮という事で、注文後すぐに温めてあるものを出すのかと思いましたが、十分経っても出てきません。しばらく待っていると、湯気がほんのり揺らいでいる熱々のもつ煮、ご飯、みそ汁、御新香が運ばれてきました。さっそく箸でもつ煮の下を探ってみると、

キャベツ、しらたきが隠れていました。ここで注文から提供までの時間がかった理由がわかりました。注文後に仕込んである、もつ、キャベツ、しらたきを合わせて煮込んでいるからです。そうすることに、もつ煮は蕩けるように柔らかく、ご飯が進む味付けです。

キャベツの触感を楽しみ、しらたきで味をマイルドにして三種の相性が抜群です。ご飯もボリュームがあり、最初は煮込みとご飯を交互に食べ、三分二を食べてお腹も膨れてきた頃に、ご飯にかけてサラサラと掻き込むのが通の食べ方の様です。子供から大人まで、もつ煮の優しい味に顔をほっこりさせながら昼ご飯を楽しんでいます。



もつ煮定食

店主とは、昼時の忙しい時間という事もあり、お話をすることが出来ませんでした。が、テーブル越しに厨房を見ていると、夫婦が仲良く一生懸命作っている姿があり、店主の優しい人柄を感じることができました。

お近くにお越しの際は、美味しい食事を楽しんでみてはいかがでしょうか。心にほっこりとした温かさを与えてくれます。

(庁報編集室 小林 充)

庁務日誌抄

3・7	3・6 3・7	3・4 3・5	3・2 3・1	2・28	2・26 2・22	2・21 2・22	2・21 2・20	2・16	2・14	2・11	2・9	2・8	2・6	2・5	2・1	1・29 1・25	1・24
神政連原本部役員・委員合同会議 教養研修会 百二十名受講 打ち合わせ	神政連原本部役員・幹事長・事務局局長 押田本部長・高麗幹事長・前原事務局出席 茨城県・水戸	中山庁長・高麗支部長・前原参事参列	神宮大麻頒布終了祭他諸会議	竹本副庁長出席 神宮大麻頒布終了祭他諸会議	一部七県神社庁中堅神職研修閉講式 一部七県神社庁中堅神職研修開講式 中山庁長出席	一部七県神社庁中堅神職研修(甲) 十二名受講	一部七県神社庁連合会総会 中山庁長他四十七名出席	一部七県神社庁連合会総会代表参拝 埼玉茨城神事社庁長・中山庁長・前原参事参列	埼玉茨城神事社庁長・中山庁長・前原参事参列	神社庁祈年祭(入間西奉仕) 正副庁長会・神社庁役員会 庁報編集会議	武田主事補出席 建国記念の日(奉祝パレード) 武田・今江・吉田助勢	宗教法入研修会 事業部会(新渡戸班・嶋田班)	教化広報部会(宮本班)	神社庁旧庁舎解体清祓 神社庁月次祭	神社庁研修所講師会 前原参事出席	埼玉県神道婦人会新年会	神社庁規程改正検討委員会 研修部会(中山班)
於 川越・水川会館	於 神社庁	於 神宮	於 神宮	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁	於 神社庁
4・1	4・1	4・27	4・23	4・20	4・17	4・16	4・12	4・10	4・8	4・5	4・3 4・2	3・28	3・23	3・22	3・15 3・16	3・13 3・12	3・9 3・10
任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令	任 免 辞 令
茂木 貞佳	高橋 信和	武田 淳本	荒井 一起	島田 佳祐	沼部 眞也	菱沼 祐太	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席	前原参事・武田主事・高橋主事・ 茂木主事補出席
埼玉県神社庁主事補(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)	埼玉県神社庁主事(神社庁)
転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任	転任
岡部 祥太	福田 大輝	茂木 貞佳	猿渡 諒	滝沢 自次	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼	原 兼
日枝神社権禰宜(比企)	八枝神社権禰宜(さきたま)	古宮神社権禰宜(大里児玉)	久伊豆神社権禰宜(埼玉東)	白髪白山神社宮司(入間西)	高麗神社権禰宜(入間西)	高麗神社権禰宜(比企)	高麗神社権禰宜(秩父)	高麗神社権禰宜(秩父)	高麗神社権禰宜(埼玉東)	高麗神社権禰宜(埼玉東)	高麗神社権禰宜(埼玉東)	高麗神社権禰宜(埼玉東)	高麗神社権禰宜(埼玉東)	高麗神社権禰宜(埼玉東)	高麗神社権禰宜(埼玉東)	高麗神社権禰宜(埼玉東)	高麗神社権禰宜(埼玉東)
4・1	4・1	4・1	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31	3・31
調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司	調神社宮司
梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司	梅宮神社宮司
梅田 久詞	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣	吉田 正臣

平成二十九年度神社本庁功績表彰(敬称略)

調神社宮司 吉田 正臣 第三条第二号  
萩日吉神社宮司 松岡 崇 第三条第一号  
小鹿神社宮司 宮田 明久 第三条第一号  
川越八幡神社役員 久保田一男 第三条第一号  
秩父神社御鎮座二千年奉祝事業奉賛会会長 矢尾 直秀 第三条第二号  
八幡神社役員 細井 欽作 第三条第二号

身分昇級(敬称略)

淨階一級 梅宮神社宮司 梅田 久詞 (二月一日付)  
二級上 調神社宮司 吉田 正臣 (二月一日付)  
二級 高城神社宮司 福井 千秋 (三月十日付)  
白鬚神社宮司 宮本 剛義 (三月一日付)  
秩父神社権禰宜 秩父神社権禰宜 守屋 通夫 伏見 博樹  
秩父神社権禰宜 秩父神社権禰宜 須長 宜久 須長 宜久  
阿保神社権禰宜 阿保神社権禰宜 御室神社宮司 御室神社宮司 中山 道子 (三月一日付)

新任職員挨拶

茂木貞佳



この度、四月一日付を以て熊谷市鎮座の古宮神社権禰宜、兼ねて埼玉県神社庁主事補を拝命致しました茂木貞佳と申します。

昭和五十八年二月生、亥年、三十五歳、名古屋出身の家内と四児がおります。十九歳まで千葉県船橋市で育ちました。平成十四年に熱田神宮学院に入学、神明奉仕の実践と寮での共同生活を経て、平成十六年、熱田神宮へ奉職が許され、七年三ヶ月ご奉仕をさせて頂きました。この間、祭務部授与課に配属され、天皇皇后陛下の御参拝や、本殿遷座祭、記念事業にて神楽殿や授与所の改築等を経験しました。平成二十三年七月に神社本庁へ転任、六年九月勤務をさせて頂き、この間、秘書部秘書課に配属され、東日本大震災の復興支援、第六十二回神宮式年遷宮、神社本庁設立七十周年記念大会等に関わりました。いずれの職場でも上司先輩同僚に支えられ、職務を通じて全国の先輩同輩との知遇を得る機会に恵まれ、掛け替えない経験させて頂き、ただただ感謝の思いです。熊谷市には四年前より居住していますが、地域のこと、県内神職の皆さまのこと、諸々知らない有様であり、不勉強なことばかりです。至らぬことをご迷惑をお掛けすることもあろうかと存じますが、神明奉仕に、庁務に、微力ながら尽くして参る所存ですので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

(神社庁主事補)

埼玉県神道青年会献木事業・勉強会

高橋陽一

水川神社明治天皇御親祭百五十年を奉祝し、埼玉県神道青年会(以下、神青会)では、去る二月十三日に水川神社並びに埼玉県神社庁に記念献木を行った。

こと神社界に於いて植樹といえは神が一般的であるが、今回はモミジを選択した。これは、御親祭が催行された十月二十八日に因んでの選択である。我々の感謝の誠が紅葉となり、色づく度に思いを馳せる。百五十年という時を経て、この事業が次世代へのバトンとなる事を切に願うばかりである。午後には勉強会を開催し、三月に行われる神青会初の海外慰霊祭となる、ハワイ慰霊祭並びに平和祈願祭の知識を深めるため、お二人の講師をお招きした。



水川神社

第一講では野田安平靖國神社権禰宜に「大東亜戦争開戦前後の戦史について」と題して講演をいただいた。ハワイ奇襲作戦に至る経過や、実行によって日本と世界がどのように変化していったかを解説された。また日本が世界情勢に関わるきっかけとなったペリー来航や五箇条の御誓文、更には天照大神が須佐之男命との対話時に於いて武装をした事など、さまざまな観点から戦争や自衛について言及された。結びに、先の大戦の慰霊を続けてきた陛下への思いを綴り、我々の慰霊事業に対する思いを鼓舞された。



野田先生

第二講では前田孝和神社新報社取締役総務部長に「布哇における日本人移民の歴史と神社」と題して講演をいただいた。日本人が布哇に渡ったのは明治元年にはじまり、労働が目的であった。日本人移民は次第に数を増し、最盛期には日本人と日系アメリカ人で、総人口の四割をも占めたという。そんな日系社会が確立される中で、当然宗教も持ち込まれた。明治三十一年に大和神社(現ヒロ大神宮)が創立されたのを皮切りに、約六十もの神社が鎮座していた。戦後、殆どの神社は廃絶され、現存するのは七社のみである(宮司在任は四社)。布哇で神社が存続するためには多くの課題が山積みであったが、宗教観や運営法をアメリカ的に慣らす事で現在に繋がったということ解説された。



前田先生

布哇神社の祭祀の様子は実に明るく、独自の文化を築いている。これは神道が持つ多様性の側面の賜物である。我々神道人は文化の保全や継承など、過去を重要視する傾向が強いが、神道の新たな可能性を布哇の神社は体現していると感じた。両講演への感想は尽きないが、多くの方々が持つ布哇のイメージは「観光地」の一言で片づけられてしまう事だろう。しかし、そこに至るまでの経過に目を向ける事が重要である。なぜ大東亜戦争開戦がこの地であったのか。何故現在には人気の観光地として成り立っているのか。何故今もなお神社が存続するのか。毎年多くの人々が魅了されてこの地を訪れるのは、海が美しくして食べ物が美味いからだけでは無い。我々日本人を含む先人達が作り上げた思想や文化が、この地に根付いているからだろう。神道の未来を握る鍵の一つは、この遠い隣国にあるものと考えられる。

(埼玉県神道青年会研修部長)

# 埼玉県神道青年会創立六十五周年記念事業 ハワイ日系移民百五十周年 「ハワイ慰霊祭並びに平和祈願祭」報告

松岡 宏 聡

平成三十年三月二十一・二十二日に、埼玉県神道青年会初の海外慰霊顕彰事業として「ハワイ慰霊祭並びに平和祈願祭」を行いました。また本年は、日本人がハワイへ移民を始めて百五十周年の節目の年にあたります。

明治元年（一八六八）、元年者と呼ばれる百五十三名の日本人がサトウキビ栽培の労働者として初めてハワイに渡りました。その後、明治十八年に日布移民条約が締結されると、第一回官約移民として九百四十四名の日本人が布哇へ渡り、米国のハワイ併合時には総人口の四割を日系人が占め、厳しい労働環境の中、ハワイ発展に大きく貢献しました。しかし、昭和十六年十二月八日、ハワイ・オアフ島真珠湾の米国海軍太平洋艦隊と基地に対する日本軍の攻撃により、大東亜戦争の火蓋が切られると戦争という名のもとに、日米両国の多くの人々が犠牲になり、また、アメリカに住む日系人は敵性外国人と見なされ、迫害や差別などを受けました。

神青会の英霊顕彰事業を振り返りますと国内各地にて事業を展開してきましたが、今回、初めての海外慰霊事業としてハワイの地を選んだのは、真珠湾に尊き命を捧げし大日本帝

国海軍第一航空艦隊に所属せる海軍大尉・牧野三郎命を始めとする攻撃隊五十六柱の英霊、同じく海軍大尉・岩佐直治命を始めとする特別攻撃隊九柱の英霊、更には米国戦没者二千四百二柱の御霊の慰霊顕彰すること。また、一大観光地として発展してきた「ハワイ」の歴史の裏に、大勢の尽力された日本人移民の苦難と努力があり、次の世代へ継承することは勿論のこと、命の尊さや平和の大切さを考え、国の隆昌と世界の共存共栄を願う場所としては最適と思つたからです。

三月二十一日、慰霊祭前日、強い風が吹き付ける曇り空の中、真珠湾攻撃の史実を学ぶ為に、アリゾナ記念館と戦艦ミズーリの見学を行いました。日本人ガイド同行のもと施設内にある人間魚雷「回天」や、昭和十九年に沖繩からの学童疎開船「対馬丸」を撃沈し、千四百名以上の犠牲者をだしたアメリカ海軍潜水艦「ボーフィン」を見学、ガイドによる

と、この攻撃は明らかな戦争犯罪である。との説明がありました。

その後、二十分ほどの真珠湾攻撃の映像を鑑賞し、船に乗りアリゾナ記念館へ向かいました。そこでは真珠湾攻撃の際、日本軍に撃

沈された戦艦アリゾナが今も、千七百七十七名の兵士と共に海中に沈んだままであり、当時船内に入っていた重油が現在も少しずつ海面に湧き出しているのを目の当たりにしました。



見学風景



真珠湾集合

その後、戦艦ミズーリを見学致しました。この戦艦は昭和十九年に就役し、大東亜戦争中は主に太平洋で活動し、昭和二十年の硫黄島上陸作戦や沖繩の上陸作戦にも参加しました。また、初めて特攻隊の戦闘機による体当たり攻撃を受けた戦艦でもあり、その際、右舷艦尾付近に衝突、炎上しましたが、爆弾はすでに投下され大きな爆発は起きず、機体の残骸と日本兵の亡骸だけが残り残りました。ミズーリの艦長は、自分の使命を全うしたこの行為に敬意を表し、水葬を行う指示を下し、旭日旗を米兵が徹夜で縫い上げ、翌朝大勢の乗員が参列する中、亡骸は静かに海に戻されたとのことでした。

この艦は、昭和二十年九月二日の東京湾で行われた降伏文書調印式を行った戦艦としても知られ、マッカーサー元帥他連合軍代表と日本からは、重光葵外務大臣、梅津美治郎参謀総長ら十一名が出席し、正式に終戦を迎え

たのです。

戦艦ミズーリは、昭和二十五年の朝鮮戦争から改修や近代化を施しながら、最後は平成三年の湾岸戦争まで出動し、翌年、米国海軍最後の戦艦として退役しました。

慰霊祭当日、曇り空と時折、強い風が吹く中、参加者は、

ハワイ出雲大社社務所を借りて白衣白袴に改服し、マキキ日本海軍墓地へ出発致しました。



準備風景

マキキ日本海軍墓地は萬延元年(一八六〇)、日米修交条約批准交換の遣米使節護衛艦咸臨丸が帰国の途次、初めてハワイに寄港して以来、日本軍艦の来航は五十数回を重ね、在留邦人の権益擁護と、日布親善に大きく寄与しました。これら旧帝国海軍は、各々その任務を全うしたが、中には不運にも任務半ばに病のため斃れた将兵もおり、この墓地の中には、その軍人等のお墓はもとより、移民してきた多くの日本人のお墓があります。

当墓地は、明治元年(一八六八)以来ハワイ開拓日本人移民の縮図ともいえるべき由緒ある日本人最古の墓地です。

マキキ日本海軍墓地では、「日本海軍軍人鎮魂碑」「明治元年渡航者の碑」「ハワイ日本人慰霊碑」を前に、祭場の準備を致しました。その間、現地の新聞記者の方、日系人向けの広報紙を発行している記者の方から取材を受けました。

午前九時、小雨と強風の中、慰霊祭を斎行し、齋主・青木智智副会長、副齋主・岡本主税事業企画副部長、祭員・渡邊昌紀理事、典儀・松岡宏聡の四名で奉仕致しました。開式前後、横からの風が吹きつけておりましたが、祓詞奏上後、慰霊碑(正面)から強い風が私たち参列者に向けて吹き、また何も無かったかのように、横からの風が吹き抜けていきました。

祭詞の中では、初めてハワイに移民した元年者百五十三柱と、病に倒れ殉職した大日本帝国海軍軍人十六柱の英霊、官約移民二百八十九柱並びにその他移民の先人等の御霊に対し慰霊詞を奏上しました。齋主玉串拝礼後、伊藤康一在ホノルル日本国総領事、嶋田土支彦神青会会長、兩宮正宣海上自衛隊一等海佐、日米協会代表三輪理事長、金子会長、ハワイ日系人連合協会代表ディーン朝比奈前会長、早瀬登ハワイ明治会会長、天野大也ハワイ出雲大社宮司、岡田章宏ハワイ大神宮宮司をはじめ、約二十名の方々に玉串を奉り拝礼頂きました。

マキキでの奉仕終了後、モイリイリ日本人墓地へ向かいました。現地では、墓地をボランティアで管理しているローラ・ルビーさんがお出迎えをして下さいました。官約移民百周年を機に建立された「同胞先亡慰霊塔」の前に、祭場の準備を致しました。

午前十一時三十分、曇り空のもと、齋主・大澤宣彦副会長、副齋主・岡本副部長、祭員・渡邊理事、典儀・松岡が奉仕致しました。元年者百五十三柱とこの墓地に眠るハワイ日系

移民の先人たちの御霊に対し祭詞を奏上し、齋主玉串拝礼後、嶋田会長、宮本修周年実行委員長はじめ、吉田正臣・高麗文康両歴代会長にも玉串を奉り拝礼頂きました。

モイリイリでの奉仕終了後、真珠湾北側にあり、湾を見晴らすことができぬニールス・ブライスデル・パークへ向かいました。到着後すぐに、真珠湾に向けて祭場を準備致しました。



真珠湾準備風景

午後一時、小雨と強風の中、「慰霊祭並びに平和祈願祭」を斎行し、神事の前には、真珠湾攻撃で命を落とした日米両国の御霊に対し、黙祷を捧げ、小林充周年副実行委員長の先導により国歌「君が代」を斉唱しました。マキキ墓地で慰霊碑からの強い風を感じたのとは反対に、ニールス・ブライスデル・パークでは、祓詞奏上後、真珠湾に引き寄せられる強い風が吹き、参列者一同、驚きを隠せませんでした。その後、渡邊祭員奏楽のもと「海ゆかば」を全員で斉唱。齋主玉串拝礼後、嶋田会長・宮本周年実行委員長、吉田・高麗両歴代会長が玉串を奉り拝礼しました。

神事終了後、小林威朗副会長の先導により「聖寿万歳」を行い、すべての慰霊祭並びに平和祈願祭を終了致しました。最後に、ハワイ出雲大社にて、無事に奉仕が終了したことも兼ねて、正式参拝を行い、全ての日程を終了しました。

(事業企画副部長)



慰霊祭マキキ日本海軍墓地での慰霊祭



アリゾナ記念館



真珠湾に向けて



モイリイリ「同胞先亡慰霊塔」にて



慰霊祭並びに平和祈願祭 真珠湾を見晴らすニールズ・ブライズデル・パークにて